

9. パワー ・ エネルギー ・ 仕事量

1. 仕事量(work)

•力を加えて物体を変位させるとき、力は物体に仕事をするという。

•仕事の量を定量的に表す量 = 仕事量

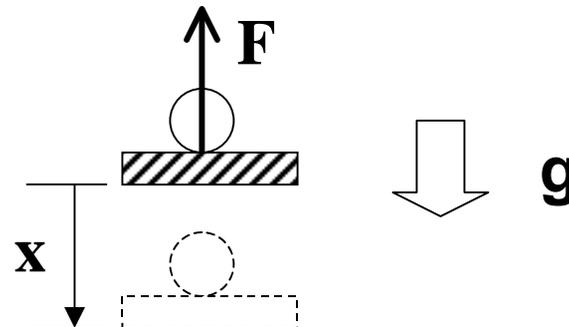
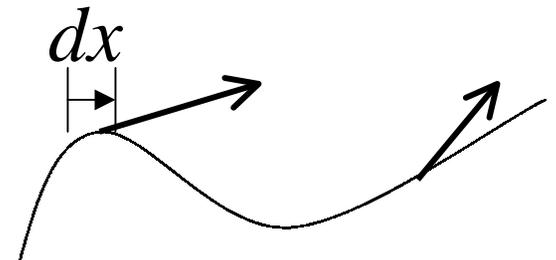
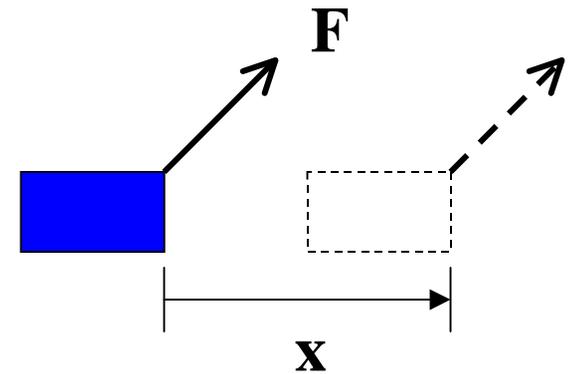
$$W = \mathbf{F} \cdot \mathbf{x}$$

$$W = \int \mathbf{F} \cdot d\mathbf{x}$$

•力と垂直な方向に動くと仕事はゼロ

•単位：ジュール[J] = [N・m]

•負の仕事(negative work)

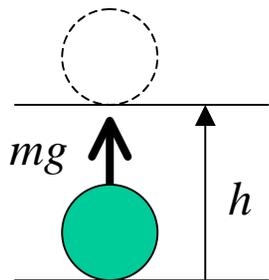


仕事の原理

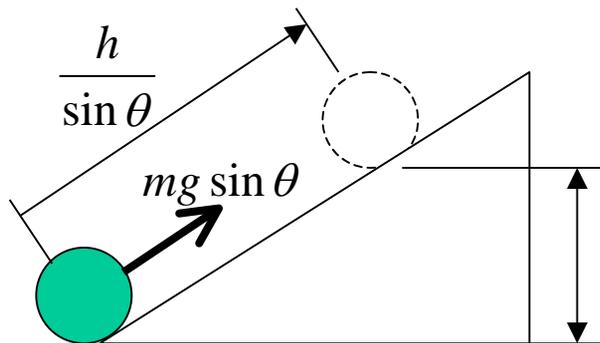
てこ, 斜面, 輪軸などを用いると必要な力を小さくすることができる.

しかし, 必要な仕事量は同じ.

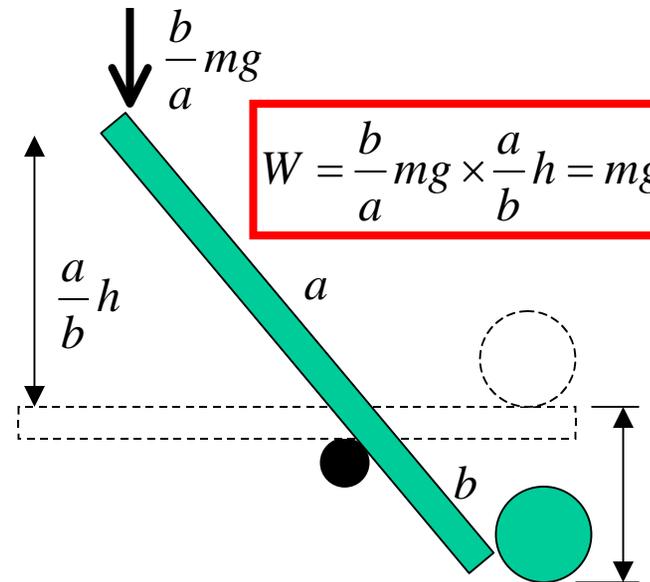
$$W = mg \times h = mgh$$



$$W = mg \sin \theta \times \frac{h}{\sin \theta} = mgh$$



$$W = \frac{b}{a} mg \times \frac{a}{b} h = mgh$$



2. パワー(仕事率)(power)

- 毎秒の仕事

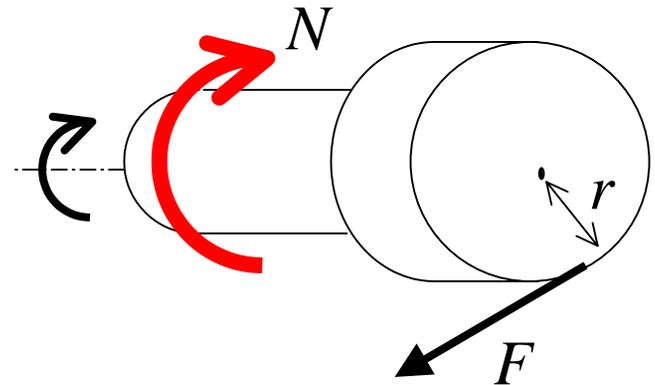
- 単位：ワット[W] = [J/s]

平均パワー $P = \frac{\Delta W}{\Delta t}$

瞬間パワー $P = \frac{dW}{dt} = \frac{\mathbf{F} \cdot d\mathbf{x}}{dt} = \mathbf{F} \cdot \mathbf{v}$

回転する物体の場合

$$P = Fr\omega = N\omega$$



3. エネルギー (energy)

• 仕事をする能力の大きさ

• 単位[J]

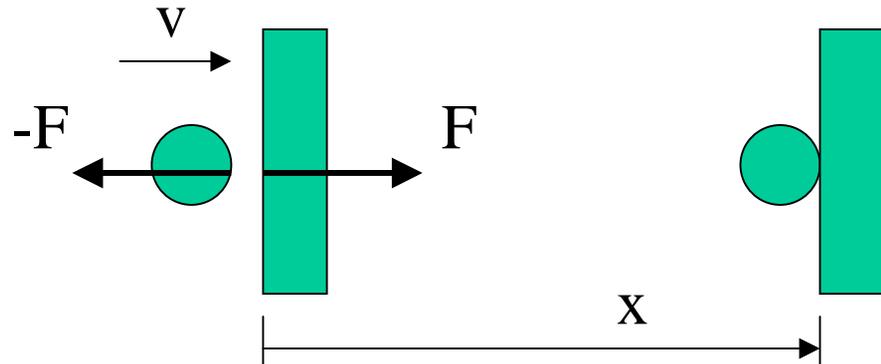
例) グローブでボールを受け止める

ボールがした仕事は

$$W = Fx$$

ボールの加速度は

$$\alpha = -\frac{F}{m}$$



ボールが x 変位する間に速度は v から 0 に変化

$$\frac{1}{2}(0^2 - v^2) = -\frac{F}{m}x \quad \therefore \frac{1}{2}mv^2 = Fx$$

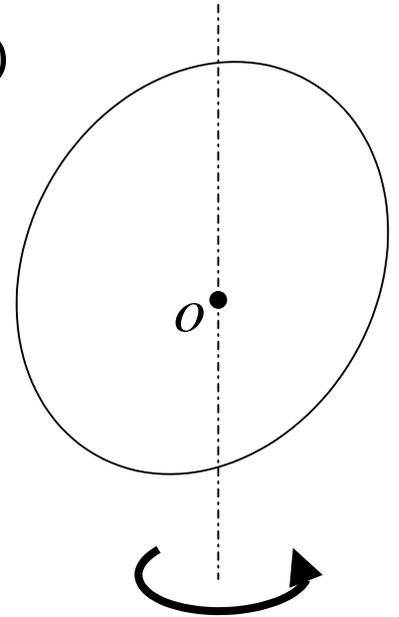
運動エネルギー

$$T = \frac{1}{2}mv^2$$

$$v = v_0 + at \Leftrightarrow t = \frac{v - v_0}{a}, x = v_0 t + \frac{1}{2}at^2 \Rightarrow \frac{1}{2}(v^2 - v_0^2) = ax$$

回転体の場合(回転軸周りの慣性が既知の場合)

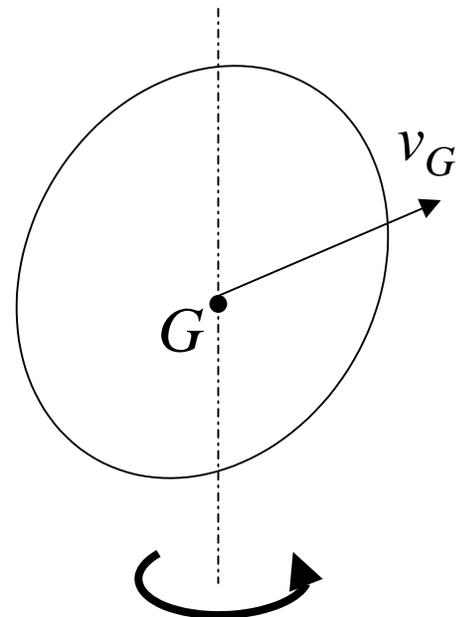
$$T = \frac{1}{2} \omega H_0 = \frac{1}{2} I \omega^2$$



回転しながら並進運動をする場合

重心の並進運動+重心周りの回転運動

$$T = \frac{1}{2} m v_G^2 + \frac{1}{2} \omega H_G$$



ポテンシャル・エネルギー (potential energy)

その位置にある物体が持っているエネルギー

・重力による位置エネルギー $U = mgh$

・弾性力による位置エネルギー $U = \frac{1}{2}kx^2$

etc...

位置エネルギーの減り = 保存力のする仕事

保存力 (conservative energy)

物体にする仕事が出発点と終点の位置だけで決まり、
途中のコースに無関係な力

例: 重力, ばねの弾性力

Cf. 非保存力

位置エネルギーを考えることができない

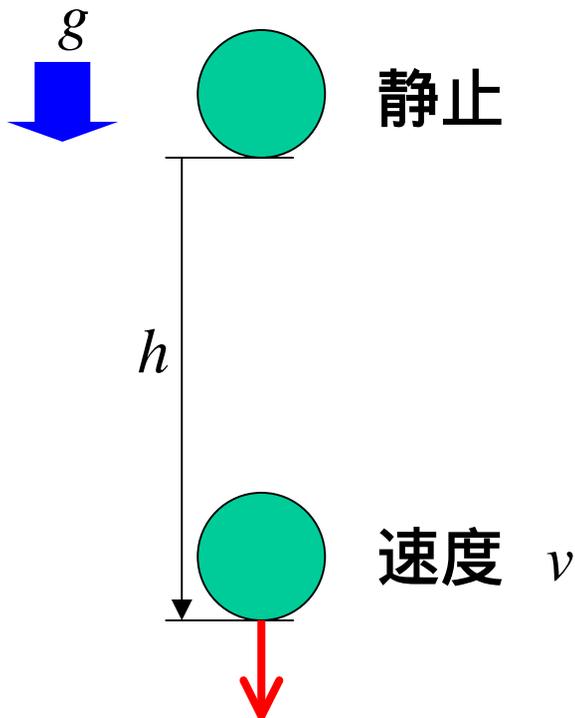
例: 摩擦力

4. エネルギー保存則

エネルギーの形態が変わっても、その総量は一定であること。

運動エネルギー+ポテンシャル・エネルギー=一定

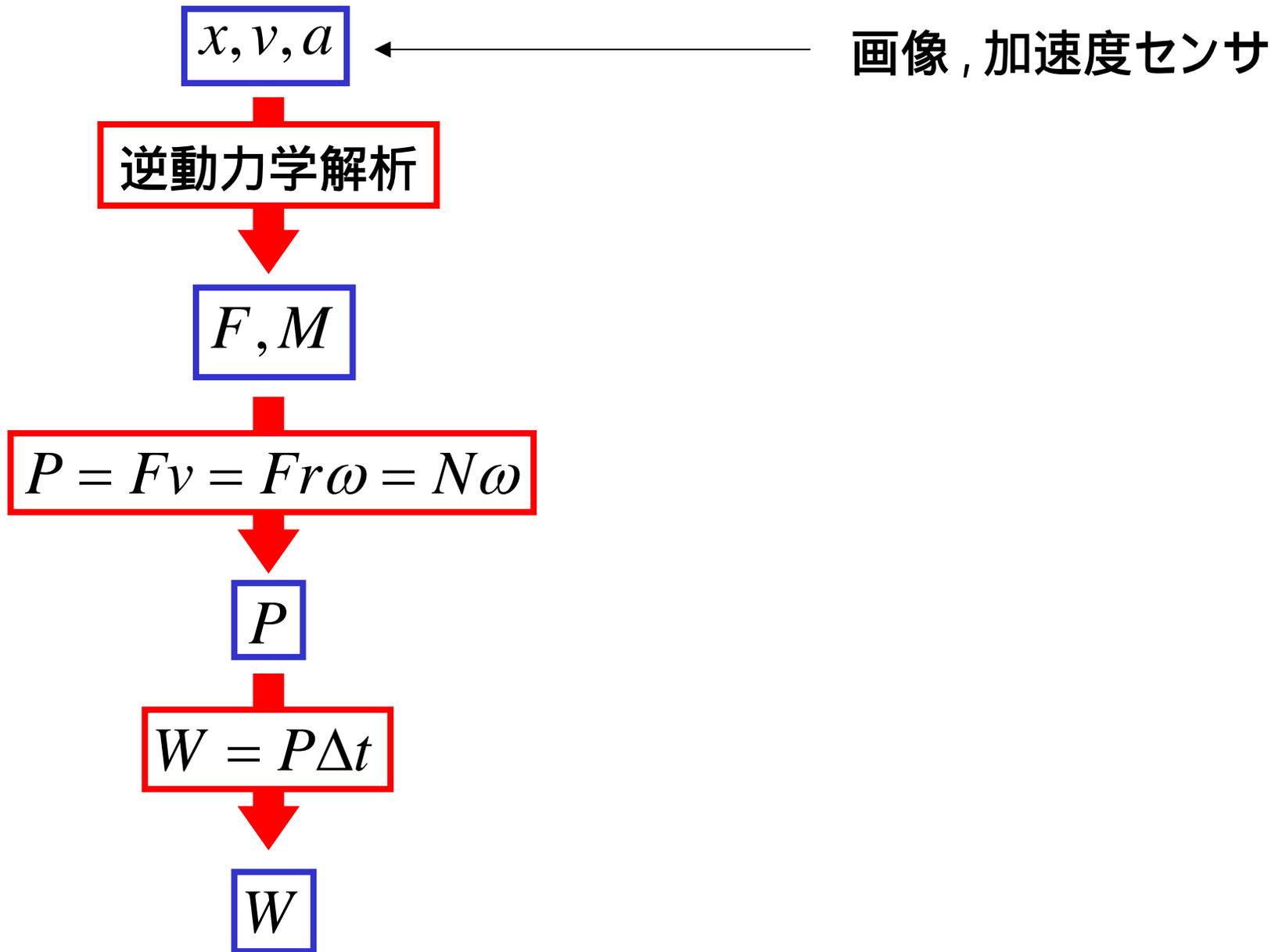
($T+U=一定$)



高さ	速度	U	T
h	0	mgh	0
0	v	0	$\frac{1}{2}mv^2$

$$\left[mgh + 0 = 0 + \frac{1}{2}mv^2 \therefore v = \sqrt{2gh} \right]$$

5. バイオメカニクスでの計算例



参考)) 数学的準備

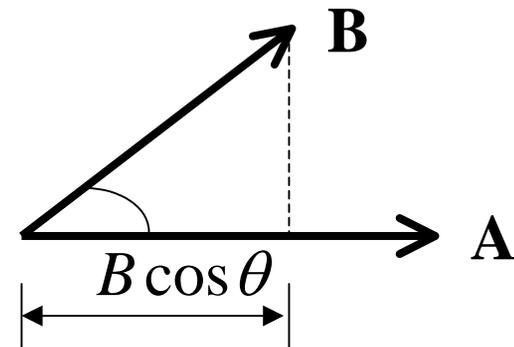
内積(scalar product)

2つのベクトル量

スカラー量

$$\mathbf{A} \cdot \mathbf{B} = AB \cos \theta$$

BのA方向成分と|A|の積



$$\mathbf{A} \cdot \mathbf{B} = A_x B_x + A_y B_y$$

